

「FUT数理・データサイエンス・AI教育プログラム」 自己点検・評価体制における意見等(様式5)

[教学IR委員会 令和4年5月13日承認]

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
プログラムの履修・修得状況	令和3年度1年次学生のプログラム履修率は85%(459名/540名)であり、この履修率がこれからもこのまま維持されるのであれば問題ないといえる。しかしながら、修得状況に関しては、もう少し修了者数が増えるように、プログラム全体での工夫・改善が必要ではないか。
学修成果	I・IIグループとIII・IVのグループの成績評価にかなりの差がある。末尾に学科記号が付いているとはいえ、同一の科目名であること、さらにはGPA(場合によっては奨学金)に関係することから、プログラム全体で成績評価の平準化や授業難易度の調整が必要ではないか。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	「授業改善のためのアンケート」の設問2・3・8の結果を見る限りにおいて、科目間で差があるだけでなく、全学平均と比べてもかなりの開きがあることから、学修者主体の授業ではなく、学修者の理解をあまり考えない一方通行的な授業になっているのではないか。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	授業改善のためのアンケートの自由回答欄に記載されている受講生の意見に耳を傾け、改善すべき点を改めるようにしないと、受講生の満足度が向上せず、将来的に後輩等他の学生への推奨につながらない恐れがある。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	プログラムの履修者数・履修率をさらに高めるための手段の一つとして、上述のように受講生の意見を取り入れてプログラムをより良いものにしていくことが考えられるが、履修者504名(修了者383名)に対して授業改善のためのアンケートの回答者数の115名(回答率にして約30%)は多いとはいえないため、回答率を上げる工夫が必要ではないか。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	実際の授業内容はともかく、数理・データサイエンス・AIとどのように結びつくのか、テーマ名から想像しにくいもの(例えば、「レーザーの基礎と大学生活の基礎」の「大学生活の基礎」など)が含まれているので、精査が必要ではないか。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	Iグループの「無」の評価が10%を超えている。主因は受講生の欠席にあるとしても、その状況をもたらしている理由を調査して改善する必要があるのではないか(1年次にしては授業の内容が難しすぎて興味がもてず、結果的に欠席に至ってしまうというようなことはないのか)。